

片貝中学校同窓会会報

第2号 2002年1月

片貝中学校 ☎・☎0258(84)2030

<http://www.city.ojiya.niigata.jp/katachu/>

E-mail katachu@city.ojiya.niigata.jp

友窓



「癒し」の技

同窓会長

浅田 正平

—同窓会懇談会から—
「中学校を卒業してから何年経ったのかしら?」「あの頃は、良かったよね。」ほとんどの人がその言葉を発する。

「何が良かったの?」「仕事の責任も、社会的な責任も無かったしね。」気が楽だったのかなあ。」

(そんな事を言うと、現役中学生諸君にしかられる。)でも正直な話だよな。

昨今、「癒し」ブームを聞く。

現代人は、仕事や、日常の生活にストレスを感じる人が多いそうである。しかし片貝中学校同窓会には、「癒しの技」を持っている。楽しい同級会だ。同窓祭だ。そんな片貝町っていいね。

会員の皆様、新年明けましておめでとございます。

刊頭より軽いあいさつで申訳ございません。楽しい同窓会を今年もよろしくお願い致します。



地域や学校を誇りに

片貝中学校長

山田 俊彦

「片貝中に赴任しました」と、同期や知り合いに告げると、「あ



そこはいいとこですよ。花火は凄いいし、スポーツも一生懸命だし、子どもも、地域もまともです。県内では片貝を知らない人は少ないようです。

片貝祭りを初め、地域の行事に参加させていただき、片貝には先人や先輩からの心意気や郷土を愛する心が、脈々と受け継がれていることを感じました。

他に誇れる故郷を持っているというところは素晴らしいことですが、片貝中出身ということは大いに誇っていただきたいものです。

私も片貝に勤務できることを誇りに思い、教職員と共に素直でたくましい子どもたちを育てていきたいと思っております。ご支援をお願いします。

「同窓祭を終えて」

つぐみ会

西澤 博明

新年明けましておめでとうございます。同窓会々員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

先の同窓祭には、小・中学校・同窓会並びに、各同級会の皆様に多大なるご協力を頂き、無事終了することが出来ました。

「つぐみ会」「友心会」を代表致しまして、厚くお礼を申し上げます。

さて、一昨年12月に当番幹事を引き継ぎ、その時は、まだ、月日もあるので楽しんでいただけですが、雪消えと共に、活動を開始したのですが、企画内容により、時間が限られていることに気がきました。

結果として、同窓祭の目的である「各同級会の交流と親睦」を柱に、企画することに決定し、偶然にも「つぐみ会」「友心会」共、酒の話では、数々の逸話を持っているクラスであり、「宴席」だけは、必ず行うことにしようとして確認しました。

数々の案が出たが、限られた予算の中で、実施するには、大きなイベントも出来ず、やったとしても、負担金の他に、さら



に、ご迷惑を掛けるわけにもいかず、結果、昨年同様「講演会」「懇親会」で同窓祭を実施する事に決定しました。

7月に、漸く内容が決定し、次の段階へと進み、個々の役割分担では、それぞれの人が、今までの経験を生かし、知恵を出し、労力を出し、目標に向かって行動する「組織の力」の大切さを感じました。

当番幹事を終え、今後このような、催事に合った時、この経験が、いろいろな面で役に立てば、良いと思います。



卒業回	名称	卒業年	会員数	会名の由来
1	和好会	S23	145人	戦争から平和へと大転換期を迎え平和の有難さから和の一字と級友の友好を力強くとの願いで好の一字を組合せ和好会と命名しました。(H14 古希)
2	立志会	S24	127名	小学校卒業生で組織し、社会人としての門出にあたり、各人が目標を持って成長したいと願って命名したもの。
3	緑友会	S25	145名	戦争で荒廃した社会の中で片貝が誕生した。校舎、校歌、校旗など何も無くとも、自然の木々の緑のように大きく成長し大樹になろう。
4	伸竹会	S26	158名	恩師本田寅一郎先生の寅にあやかって虎に竹はつきものということで、竹のごとく健やかに真っ直ぐに前進することを願って命名。
5	講春会	S27	130名	昭和26年(1951)9月、サンフランシスコのオペラハウスで講和会議が開かれ、勝者と敗者の間に条約が結ばれた。日本がポツダム宣言受諾後国際社会に復帰した年である。その翌春、卒業したのが私たちである。恩師が戦争と敗戦、そして国際社会復帰、歴史のつづきを忘れず大きく伸びて欲しいと願って名づけられたと聞いている。
6	鳳友会	S28	156名	鳳(孔雀に似た想像上の大きな鳥)当時の恩師、故吉田一雄先生が、「級友たちは、大きく羽を拡げて飛び立って行け」と命名された。
7	同心会	S29	125名	只単純に全会員が一つの心になって楽しい同級会であって欲しいと願って。幸いな名に負けず、年数回の会合を皆んなで楽しんでいます。
8	若杉会	S30	160名	若い杉の木のように年中青く真っ直ぐに伸びる枯れない針葉樹。将来の人生をこの木に肖かって名を若杉会とした。
9	新辰巳会	S31	143年	成人そして24才までは、同級会機関紙のもとにあかつき会、25才時に唯一奉納煙火打上それを機に、辰巳年生まれゆえに新辰巳会
10	伸友会	S32	147名	人生は何歳になっても、どこで逢っても声をかけあえる友であり人生である。「友・情・の・輪」
11	朗志会	S33	150名	卒業回の11次に生れ年の馬と羊ですが良い名前が浮かんでこない。いくつかの案の中から朗らかな志を持った会と云うことで朗志会に決定。(H14 還暦)
12	陽光会	S34	150名	名前の陽光会は太陽の光をあび伸び行く同窓会である様命名したことです。
13	十三鶴会	S35	125名	新制中、第1回卒から我々卒業まで回数の同窓会名がなかった事から第十三回卒にあたり数字の十三を頭に鶴のように美しくを願い命名。
14	白樺会	S36	80名	私達が卒業する2年前の昼、皇太子御成婚(現天皇陛下)。世はまさにミッチーブーム。会名を決める時も3つばかり候補がありましたが大接戦で美智子妃殿下(現皇后様)のおしるしである「白樺」を拝借して「白樺会」と命名しました。
15	十五誓会	S37	103名	いつまでも皆んな仲良く、りっぱな社会人になるために、15回卒業にちなみ、15の誓いを立て、そのまま会の名前としました。
16	慰十六会	S38	201名	団塊の世代第一期で常に大人数で何事にも対処していかなければならない宿命であり、仲間から落ちこぼれないように頑張って行こう。
17	となかい	S39	205名	17回卒業ということととなかいです。「夢としあわせ」をとなかいがサンタクロースと共に「となかい全員」に運んできますように!
18	永遠会	S40	181名	18回卒業の18を「とわ」と読み、同級生の絆は永遠にとの願いを込めて、永遠会としました。
19	十九伸会	S41	139名	卒業時の校長先生のお名前が「大塚徳治」先生でした。「徳」の一字をいただき十九を「とく」と読み卒業後社会において共に伸びる事を願い命名しました。
20	にれ会	S42	123名	20回の卒業のゴロ合わせでにれ会となりました。昭和38年にヒットした歌謡曲で舟木一夫が歌った「高校三年生」という曲が流行していた時代だった。
21	つどい会	S43	108名	卒業第21回の語路合わせ。いくつになっても、つどい会の旗じるしの基につどい語り合おう。(H14 50才)
22	にじ会	S44	110名	22回の語路合わせで「にじ会」になりました。最初の頃よく宴席、宴会等で使われる「二次会」と間違えられましたが、ようやく町内では間違えられなくなりました。
23	つぐみ会	S45	90名	23回卒なので「2と3」の語呂合わせで「つぐみ」とした。
24	つくし会	S46	114名	24回卒業に因み、春の息吹きをイメージして命名しました。42才厄払い行事を機に発行した会報「つくしんぼ」も13号です。
25	しろがね会	S47	88名	25回卒業なので、25回から連想される銀婚式より「しろがね会」と命名された。いつまでも相思相愛なかよくいたいものです。
26	酉戌会	S48	101名	他の学年の様にちょうどよいゴロ合わせの名前がなく考えていた所、故中森先生のアドバイスを頂き生まれた年の干支をそのまま命名に。
27	船出会	S49	104名	卒業第27回にちなみ、人生の新たな船出を祝して片貝卒業時に美人で人気のあった大川栄子先生より命名いただきました。

片貝同窓会 そろそろいふみ

卒業回	名称	卒業年	会員数	会名の由来
28	双葉会	S50	111名	28回卒業の2と8の2文字から、双葉と命名を決めました。新芽の双葉のように全員が元気に伸びていくことを願っての命名です。
29	福寿会	S51	75名	29回卒業の2(福)と9(寿)から会名が出来ています。末長く会員の幸せを祈り、年を重ねる度に楽しみになる会でありたいです。(H14 42才)
30	みつわ会	S52	87名	30回卒業年度にあたり、3つの輪でみつわ会と命名されました。友情、敬愛、信頼と言う3つの輪を以て、みつわ会の和となります。
31	恒友会	S53	80名	当時の恩師小田島栄重先生からいくつか命名を出していただき、その中からみんなで話し合い、恒友会を選びました。
32	緑翼会	S54	67名	32回卒業で、3(み)two(ツー)のゴロ合わせ。「み」「つ」のつく名前にした。
33	さざなみ会	S55	79名	語呂合わせで付けました。卒業当時、片貝町から大海原に漕ぎ出すに、ふさわしい命名だったと思います。(今は、溺れかけの人も!?)
34	実生会	S56	77名	実生…実から芽が生えている様子。会員が苦心努力し、いつの日かまた大きな実が結ぶことができるよう願いを込めて命名しました。
35	友心会	S57	75名	特別な由来はありません。卒業回の語呂合わせの会名と、この会名でみんなで投票した結果、友心会と決まりました。
36	成友会	S58	69名	読んで字の如く、1人1人の友情で成り立っている仲間。誰が見てもシンプルで意味も解りやすいのもポイント。
37	翼進会	S59	85名	小学校の卒業文集が「つばさ」という題名でした。それで翼が未来へ向かって羽ばたいて進んで行くという意味でつけました。
38	一心会	S60	73名	会員の心を一つにすることで、信頼と友情をより深めて行こう。
39	翔心会	S61	93名	39回卒で、みちのく会という話もありましたが、投票の結果、翔心会に決まりました。(H14 33才)
40	鳳凰会	S62	71名	「鳳凰のように羽ばたけるように」という意味と、40回卒なので4(フォー)と0(オー)の語呂合わせ。
41	輝友会	S63	85名	当時、同級生全員で想い想いの会の名前を考え、その中で仲の良い私達にふさわしい輝友会という名前を選びました。
42	希進会	H1	74名	希望に向かって進んで行ってほしいから
43	平成会	H2	80名	平成元年に卒業したため
44	飛翔会	H3	69名	みんなが社会へ大きく羽ばたいて立派な社会人になるようにと、会員全員で決めた名前です。
45	翼翔会	H4	72名	小学校の時「つばさ」学年だったので「翼」の漢字を使った会にした
46	輝龍会	H5	70名	同級生全員の未来が輝けるものになるようにという思いを込めたものです。
47	愛郷会	H6	71名	ふるさとをいつまでも愛していこうという願いを込めて
48	翠心会	H7	62名	ハレー彗星の到来とともに小学校へ入学しすいせい学年と呼ばれていてその彗星のすいといつまでも友を想う心をもつという意味で心がつきました。
49	恒暉会	H8	68名	恒に輝きつづけると言う意味でつけられました。なかなか、会名を覚えてもらえなくて、大変です。
50	嚶聖会	H9	74名	鳥の鳴き声のようにいつまでも清らかな気持ちを持ち続けるようにという意味でつけられました。(H14 成人)
51	五十一会	H10	59名	そのまんまではなんなので、昨年アレンジしました。意味はそのまんまの通りです。
52	翡翠会	H11	70名	ひすいとは宝石のひすいからとった名前です。いつかひすいの石みたいにするばらしい人間になるという願いをこめて。(会長的考え)
53	翠嶂会	H12	54名	青々とした連山のようにたくましく、そしていつまでも強い絆が持ちつづけられるようにしたいと思ってこの名前にしました。
54	愛星会	H13	58名	誰にでも愛されるような人になり一人一人が星の様に輝いていられますように。という意味です。

